「マーカー利用選抜による気候変動に適応した菌床栽培用シイタケ品種の開発」

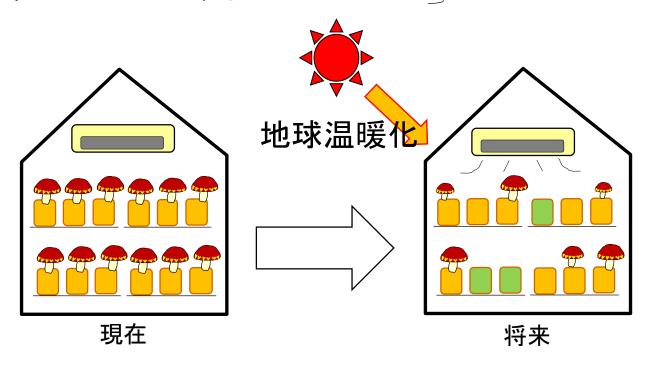
研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所 森林微生物管理研究グループ 宮崎和弘

研究の背景

気候変動がシイタケ菌床栽培へ与える影響

- ・空調コストの増大
- ・シイタケの収穫量の減少
- 病害リスクの高まり

生産者の経営を 圧迫



想定される対応策

気候変動に適応した新品種*を

開発し、現場に普及する。

(* 高温環境下でも安定的に子実体が発生 する品種を想定)

本日の発表に関連する事業

農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業 「シイタケの高温発生品種を効率的に作出する ための技術開発(課題番号:23051)」

イノベーション創出強化研究推進事業

研究期間:平成23年度~25年度

「マーカー利用選抜による気候変動に適応した菌床栽培用シイタケ品種の開発(課題番号:

28034C) J

研究期間:平成28年度~令和2年度

コンソーシアムの構成

イノベーション創出強化研究推進事業 「マーカー利用選抜による気候変動に適応した菌床栽培用シイタケ品種の開発」

シイタケ品種共同研究機関コンソーシアム

(研究総括:森林総合研究所)

テーマ:シイタケゲノムデータの

整備 (担当:森林総合研究所、岩手生物工学研究センター、秋田県立大学)

テーマ: 選抜用マーカーの開発

(担当:森林総合研究所)

テーマ: 関連する遺伝領域の特

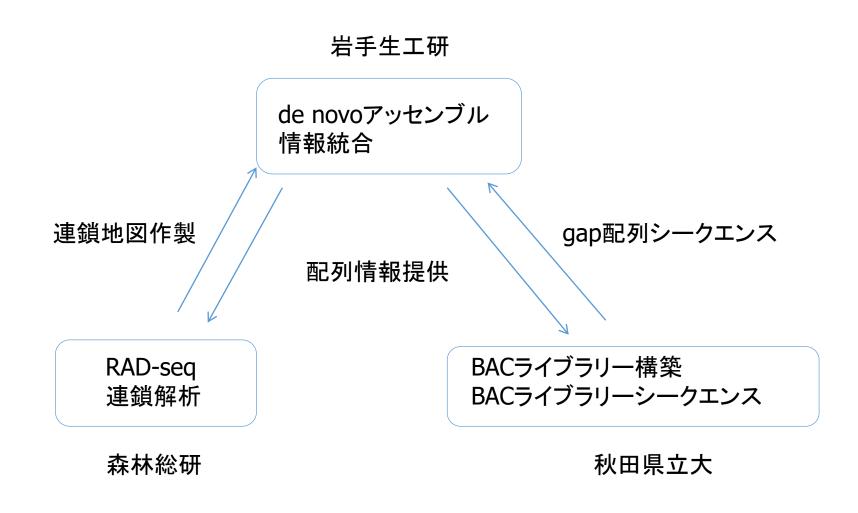
定 (担当:森林総合研究所、岩手生物 工学研究センター、秋田県立大学)

テーマ: 新規交配菌株の作出と 有望菌株の選抜 (担当: 森林総合 研究所、大分県、株式会社北研)

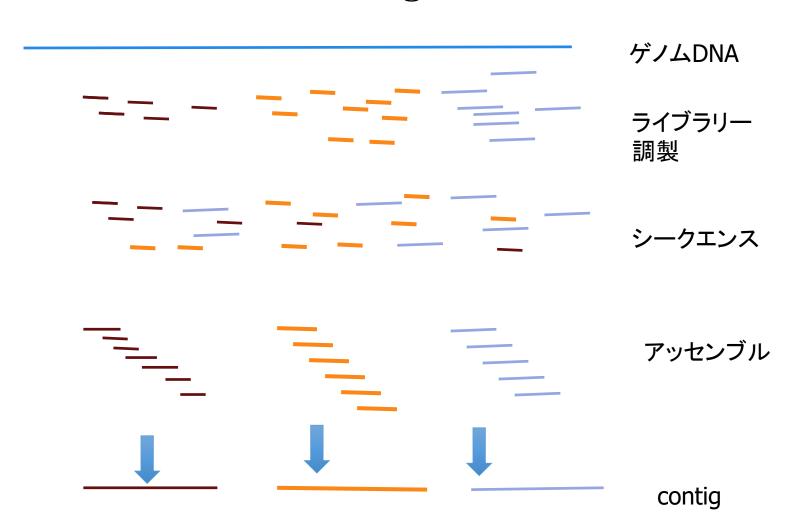
アドバイザー 鳥取大学 コーディネーター 九州*バイオ*リサーチネット

ゲノムデータの整備の必要性:

育種の効率化を図るためには、目的の形質を 制御する遺伝子、もしくは遺伝子の存在する遺 伝領域を特定し、選抜に応用することが求められ る。より詳細なゲノムデータがあれば、関連する 遺伝領域の特定が容易になることから、シイタケ のゲノムデータの整備を行った。



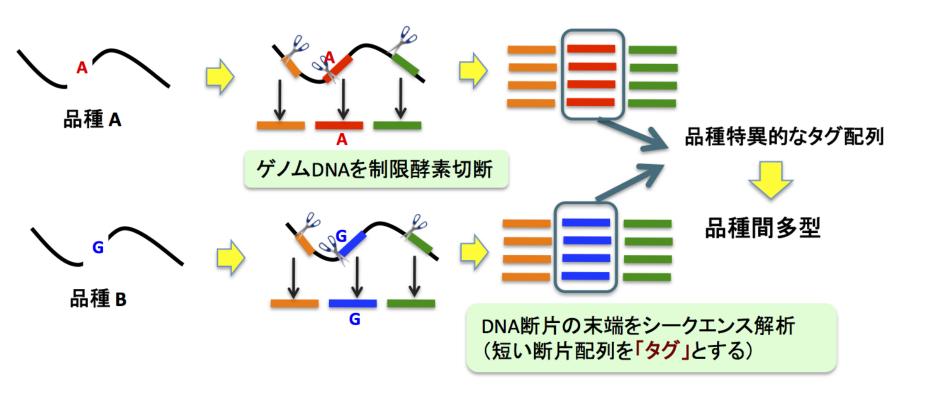
コンティグ (contig) の作成



ス	キャフォールド	(scaffold)	化
-			contig
	~10kbp — NNNNNN —	~10kbp NNNNNN ― メイト	トペアライブラリ
	NNNNNNNN		
	NNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNN		scaffold

G408PP-4株で10kbライブラリーのシークエンス完了

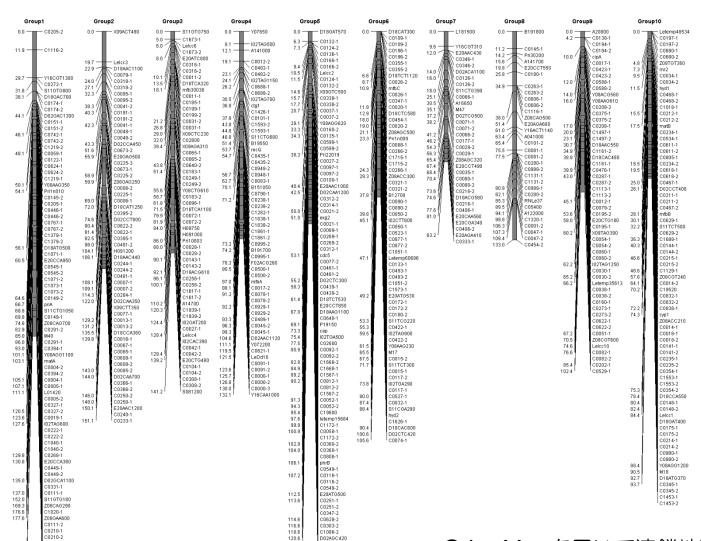
RAD-seq法による高密度連鎖地図の作成



高密度連鎖地図の作成

C0217-1

C0420-1 C0420-2



C1086-1 C1824-1 ●AntMapを用いて連鎖地図を作成した。

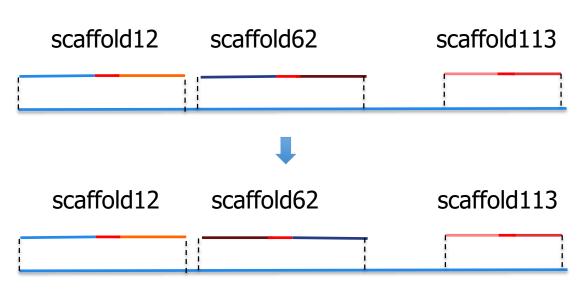
高密度連鎖地図の成果

	newi	map		former map		
	No. markers	Length(cM)		No. markers	Length(cM)	
Group1	81	194.19	Group1	23	152.46	
Group2	59	151.11	Group2	15	111.56	
Group3	58	141.19	Group3	20	111.56	
Group4	57	132.12	Group4	17	85.51	
Group5	86	122.72	Group5	22	88.57	
Group6	66	105.59	Group6	21	84.19	
Group7	33	83.17	Group7	14	65.68	
Group8	32	132.96	Group8	11	68.33	
Group9	55	102.35	Group9	12	57.53	
Group10	76	93.75	-Group10	10	33.66	
·			Group11	8	25.68	
total	603	1259.15		173	884.73	

- \rightarrow 以前のmapのGroup10、11がひとつの連鎖群(Group10)にまとまり、 合計10連鎖群になった。
- → 報告されたゲノム情報はアッセンブルエラーが多いことが示唆された

連鎖解析によるスキャフォールドの整列

		linkage	
SS_scaffold	SS_scaffold長	group	Distance (cM)
scaffold12	122448	1	10.0
scaffold62	108732	1	17.5
scaffold113	201897	1	20.0
scaffold113		1	21.9
scaffold1	306651	1	26.0
scaffold139	135656	1	43.0
scaffold139		1	46.3
scaffold33	130516	1	46.3
scaffold78	170081	1	56
scaffold35	101460	1	61.7
scaffold3	170064	1	61.7
scaffold18	111532	1	70
scaffold362	34848	1	75.1
scaffold49	202290	1	75.1
scaffold208			
8	649	1	75.1
scaffold49	202290	1	75.1
scaffold14	206222	1	80.0
scaffold14	206222	1	82
scaffold293	46747	1	90.5
scaffold58	78589	1	130.4
scaffold90	135018	1	144



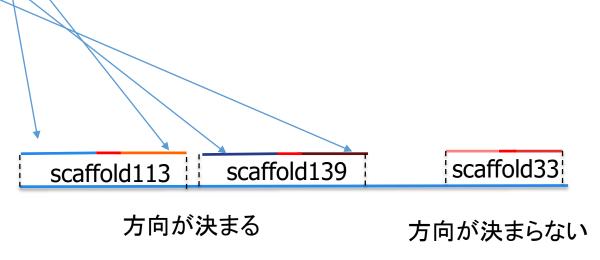
低密度の連鎖地図だと、並びは分かってもスキャフォールドの向きを決定することが出来ない



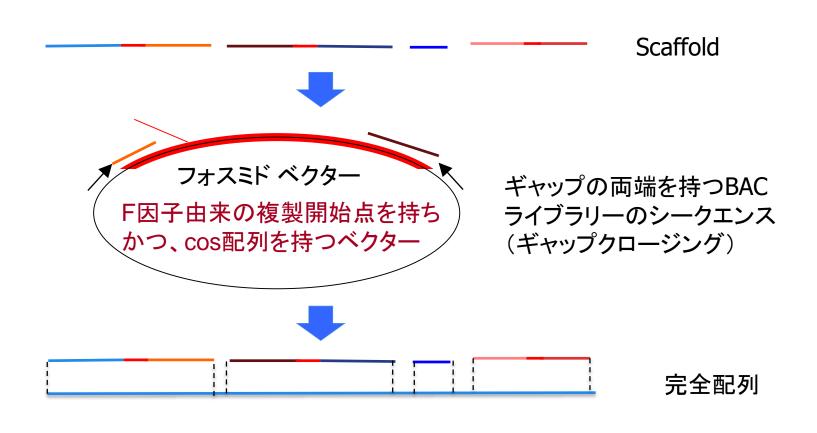
RAD-seqにより高密度の連鎖地図データを得る

SS_scaffol d	SS_scaffold 長	linkage group	Distance (cM)
scaffold12	122448	1	10.0
scaffold62	108732	1	17.5
scaffold11 3	201897	1	20.0
scaffold11 3		1	21.9
scaffold13 9	135656	1	43.0
scaffold13 9		1	46.3
scaffold33	130516	1	46.3
scaffold78	170081	1	56
scaffold35	101460	1	61.7
scaffold3	170064	1	61.7
scaffold18	111532	1	70
scaffold36 2	34848	1	75.1
scaffold49	202290	1	75.1
scaffold20 88	649	1	75.1
scaffold49	202290	1	75.1
scaffold14	206222	1	80.0
scaffold14	206222	1	82
scaffold29 3	46747	1	90.5
scaffold58	78589	1	130.4
scaffold90	135018	1	144

高密度の連鎖地図を利用 することでスキャフォー ルドの方向が決まる

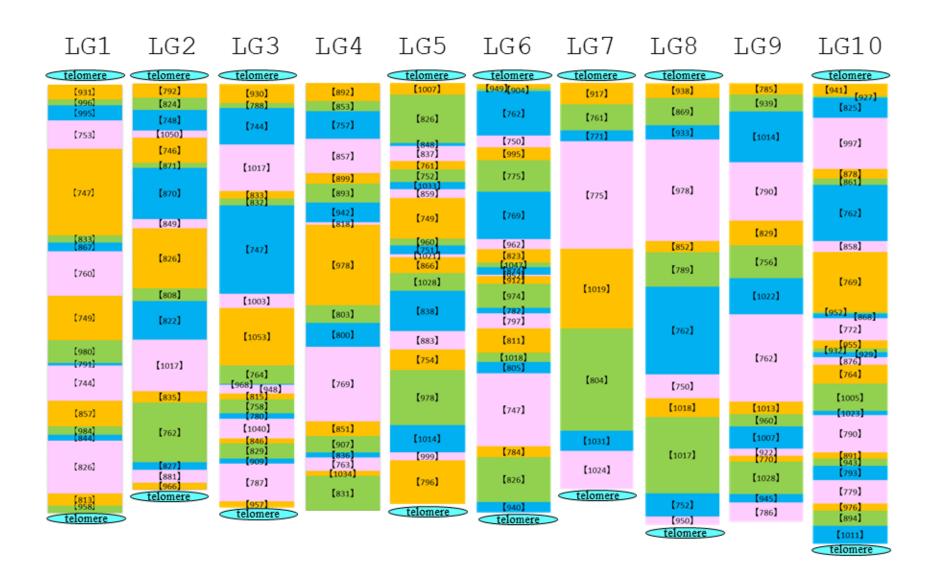


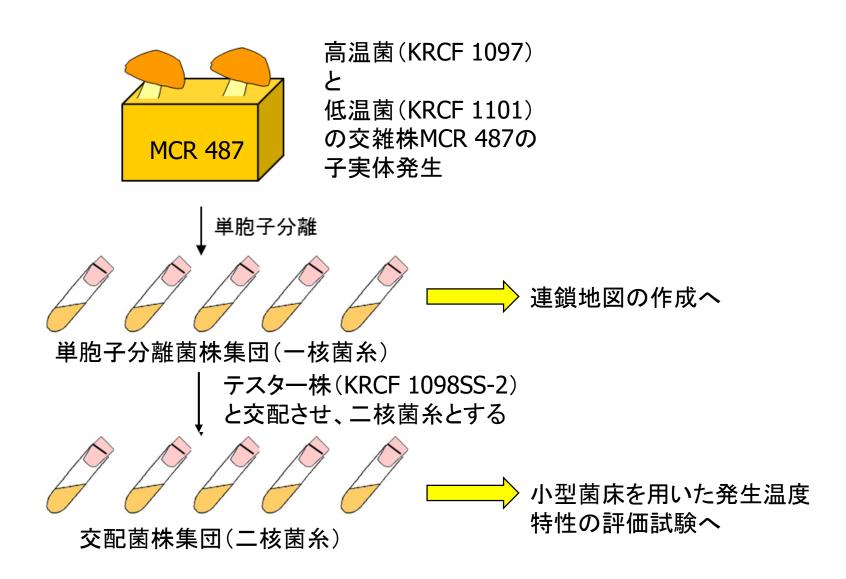
BACライブラリーの利用



scaffold整列化の結果

連鎖群	Scaffold数	方向性の決まった scaffold数	塩基長
LG1	15	13	6.2Mb
LG2	14	14	4.5Mb
LG3	18	18	5.2Mb
LG4	14	14	3.9Mb
LG5	15	15	5.2Mb
LG6	16	15	4.1Mb
LG7	5	5	1.8Mb
LG8	7	7	2.0Mb
LG9	14	14	3.6Mb
LG10	21	18	5.8Mb
Mitochondria	1	-	116kb
unmapped	70	-	2.4Mb





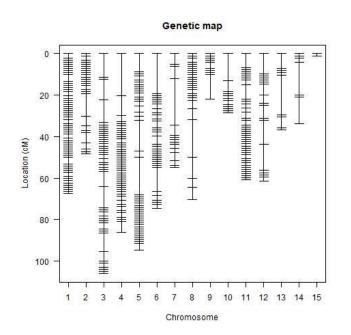
連鎖地図の作成

菌株: 最終的に評価結果の得られた98の交配菌株に対応する 単胞子分離菌株を解析

SNP解析方法: RAD-seq法により得られたSNPの98菌株間での分離データを使用した。

連鎖解析: AntMap(http://lbm.ab.a.u-tokyo.ac.jp/~iwata/antmap/)

参照用シイタケゲノム配列: all_LG190214.fasta



総マーカー数:1347

連鎖群数: 15

総長: 846.5 cM

小型菌床による栽培試験条件

- 1. 培地条件
- (1) 培地基材 広葉樹オガ粉: コットンハル=50: 50(容積比)
- (2)栄養体

米ぬか:フスマ=50:50(容積比)

※ 培地基材の15%(容積比)

- (3)殺 菌:118°C 30分
- (4)含水率:65%
- (5) 培地量: 80ml(40g)
- 2. 培養条件

1次培養:18°C 4週間 全暗黒

2次培養:22℃ 4週間 明暗12時間交互



3. 発生条件

- (1)温度条件: 22°C・18°C・14°C・10°C (QTL解析用菌株の温度特性評価)
- (2)光 条件:明暗12時間交互

4. 発生処理方法

- 1回目:培養期間終了後袋内で培地を反転
 - ↓ 3週間(発生調査)
- 2回目:発生温度と同じ温度の水で24時間浸水処理
 - ↓ 3週間(発生調査)
- 3回目:2回目と同様の浸水処理
 - ↓3週間(発生調査)

廃棄

Ⅱ. 判定方法

① 発生が見られた温度により高温性~低温性を判定

22°C:4、18°C:3、14°C:2、10°C:1

- ※ 複数の発生処理回数で発生が見られた場合には、より早い処理回数の発生処理温度により判定する。
- ※ 同一の発生処理回数で、複数の温度で発生が見られた場合には、高い方の発生処理温度により判定する。

小スケール培地 発生野帳

菌株名	- 処理	22°C			18°C			14°C			10°C						
国体石	处垤	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
H608	9/26	\circ				\circ	\circ	\circ	\bigcirc	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\circ	\bigcirc	\bigcirc	
(高温)	10/16	\circ	\circ		\bigcirc			\bigcirc		0	\bigcirc			\circ	\bigcirc		
	11/7																
K115	9/5																
(低温)	9/26										\circ		\circ		\bigcirc		
(吃加)	10/16																\bigcirc
	9/12	\circ	0			\circ	\bigcirc		\bigcirc	\circ	\bigcirc						
919	10/3	\circ		\bigcirc		\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
	10/24		\bigcirc			\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
	9/12														\circ		
923	10/3											\bigcirc	\bigcirc	\circ	\circ		\bigcirc
	10/24							\bigcirc			\bigcirc		\bigcirc		\bigcirc		

評価

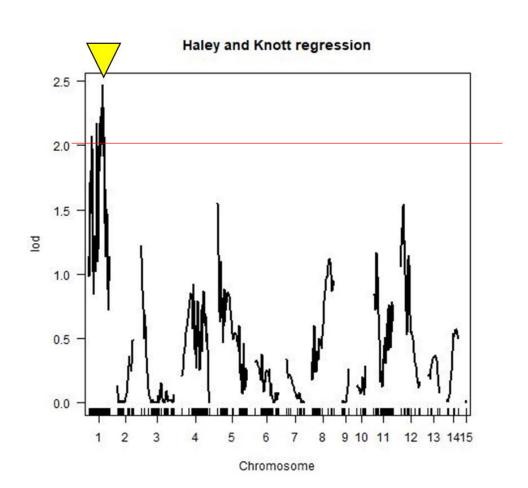
4

2

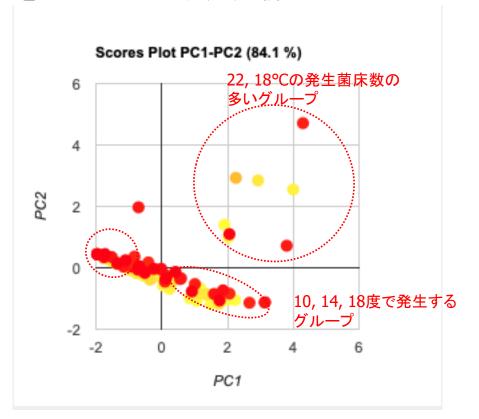
4

1

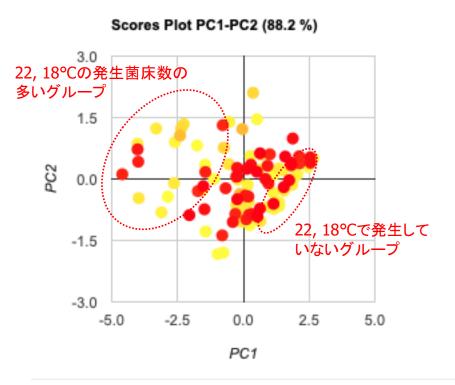
98菌株の評価結果(試験回数1~4回、複数の結果が得られた菌株は平均値)とRAD-seq法で得られたSNPの分離パターンのデータから、QTL解析(統計ソフトRのパッケージ「qtl」を使用)を行った。



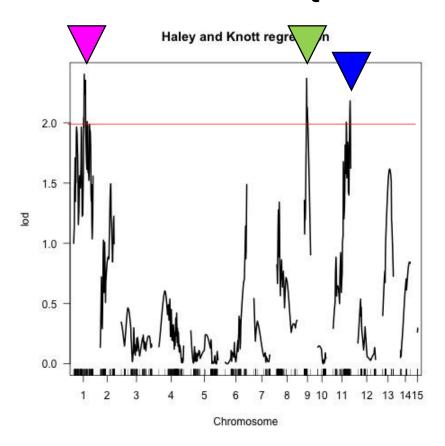
各温度条件下(22, 18, 14, 10°C)で、1回目に子実体発生した菌床個数をもとにした主成分分析



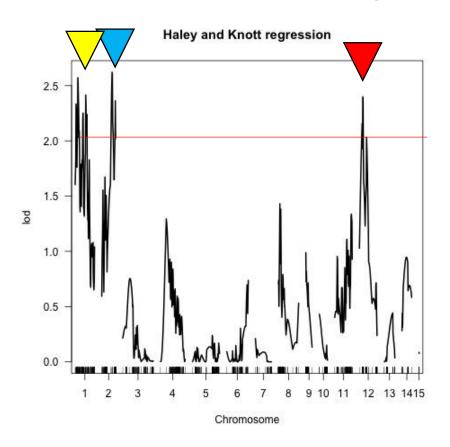
各温度条件下(22, 18, 14, 10°C)で、 1, 2, 3回までの子実体発生した菌床個 数の総計をもとにした主成分分析



1回目発生の主成分分析の座標位置(PC1-3)をもとにしたQTL解析

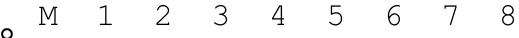


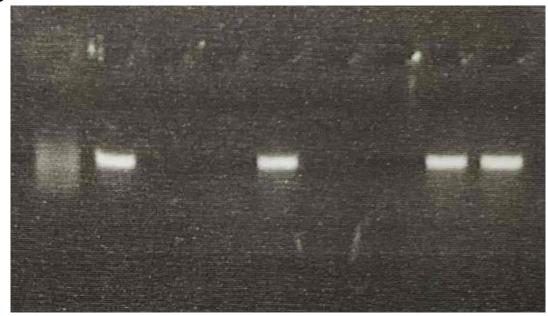
1~3回までの発生の主成分分析の 座標位置(PC1)をもとにしたQTL解析



選抜用マーカーの開発

検出されたQTLの遺伝領域をゲノムデータと照合し特定し、親株に使用した一核菌糸菌株の間に存在するSNPを利用して、選抜用マーカーを設計した





M: 100 bp ラダーマーカー

1: KRCF1097PP-1 (高温株)

2: KRCF1101PP-10 (低温株)

3: MCR487SS-5

4: MCR487SS-13

5: MCR487SS-20

6: MCR487SS-27

7: MCR487SS-35

8: MCR487SS-37

LG3-scaffold08に検出されたQTLに対応するよう設計した選抜用マーカーによる増幅結果

選抜までの流れ

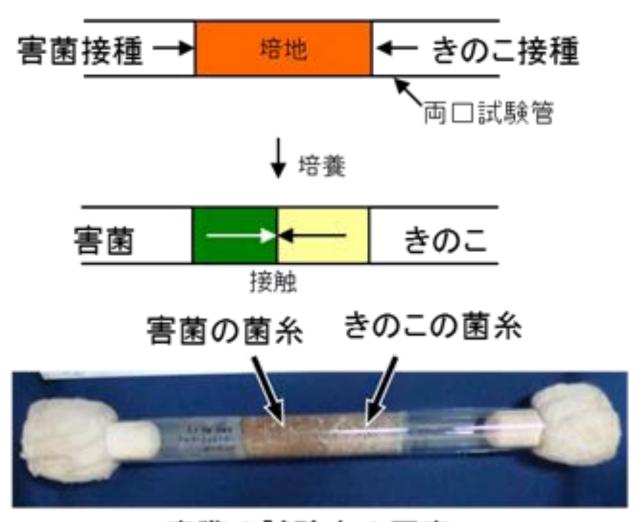
- 1. 育種母材からの単胞子分離
- 2. 選抜用マーカーを利用した選抜
- 3. 交配菌株の作出
- 4. 対峙培養試験による耐病性検定
- 5. ミニ菌床による選抜
- 6. 栽培試験(1回目)
- 7. 栽培試験(2回目)

育種母材品種の選定

57号

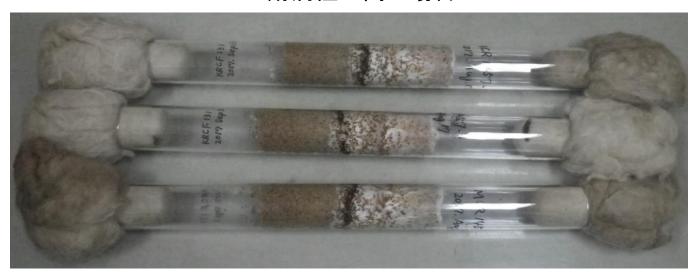
北研	森産業	菌興	キノックス
608号	XR-1	697号	S10号
<u>73号</u>	<u>KV-92</u>	702号	S055号
607号	5K-16		
603号			
715号			
71号			

対峙培養試験による耐病性検定

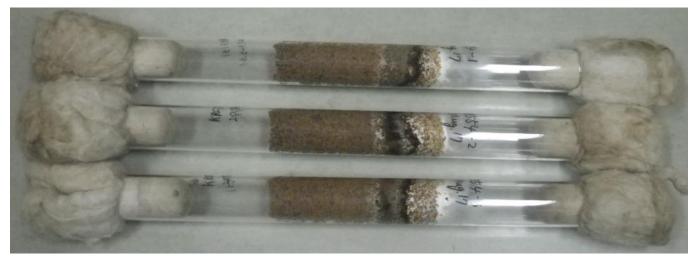


実際の試験中の写真

耐病性が高い場合



耐病性が低い場合



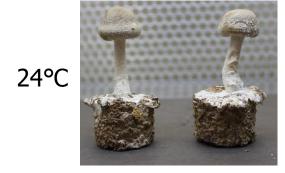
小型菌床による選抜試験

北研 73号













小型菌床による選抜試験

MCR 2065

24°C







MCR 2066

24°C







シャーレ菌作製



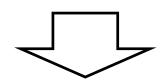
20°C • 30日培養 →30日保管



培地作製~培養

21±1°C

90、120日間 (菌株によって)

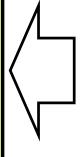


評価・選抜



温度特性

菌床状態 収量性 きのこ品質



きのこ発生(全面、3回)



初回 : 17℃・14日間

二回~:22℃と28℃変温・

14日間

休 養:22°Cと28°C変温・

7日間

発 茸:浸水

管理ステージ	管理温度	内容
初回発生 14日間	17℃一定	栽培性能(菌床仕上がり 状態、きのこ形質など) を評価
休養管理 7日間	昼28℃(12h)→ 夜22℃(12h)の 変温サイクル	高温条件下で原基形成を 行う
発芽刺激 6時間	22°C	22℃の水に水没させる事 で発芽刺激を与える
2回目発生	昼28℃(12h)→ 夜22℃(12h)の 変温サイクル	高温発生特性を評価

初回発生

3回目発生









今後の予定

最終選抜に残った有望菌株の品種登録に向けて 試験を継続

2021年	高温特性の評価 実用化上の課題洗い出し
2022年	実用化課題の検証 実用化の可否判断
2023年	実用化「可能」の場合、 品種登録データの取得
2024年	品種登録出願

謝辞

本研究は、農研機構生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」の支援を受けて行いました。

本研究の実施にあたり、ご協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます